

(熊本版)

親族と対面し墓参り

比残留2世の男性「神に感謝」

フィリピンで戦時中、日

本人男性を父に生まれた

残留日本人2世、本田ダ

ビッドさん(67)・ルソン島

在住Ⅱが来日し、甲佐町の

親族と対面。8日、亡父の

法要に出席し墓参りをし

た。

同町出身の父寅雄さんは

1933年、移民で渡航

し、フィリピンの女性と結

婚。ダビッドさんら姉弟が

生まれたが、寅雄さんは戦

後、日本に強制送還され



亡父の遺影が置かれた墓に参るダビッドさん(左)と孝明さん(右)甲佐町中横田

た。支援団体の調査で、寅雄さんの身元や異母弟の孝明さん(64)がいることが分かった。

ダビッドさんは7日に来

日。阿蘇くまもと空港で、

孝明さんら親族が「おかえりなさいダビッドおじさん」の横断幕を掲げて出迎えた。孝明さんが花束を渡すと、2人は抱き合い、涙ぐんだ。

8日、孝明さん方であつた寅雄さんの法要に出席。

墓参りでは寅雄さんが好きだったビールを墓石にかけた。孝明さんは「おやじは生前、フィリピンに行きたがっていたがかなわなかった。(支援団体が兄を)見つけ、来てもらい、それだけ救い。おやじは草葉の陰から見ていると思う」と話した。

神父であるダビッドさんは「この機会の実現を神様と関係者に感謝する。今まではフィリピン人だったが、ここにきて日本人とフィリピン人であることを感じるようになった」。